

勿凝学問 365

柔軟姿勢とみるか高等戦術とみるか・・・

前門の虎、後門の狼

2011年3月3日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

またもや、HP上の文章が長くなりすぎたので。

柔軟姿勢とみるか高等戦術とみるか・・・

- [自民石破氏、超党派協議に柔軟姿勢 政府側の機関決定前提に](#) 日経 web

自民党の石破茂政調会長は2日午後の記者会見で、社会保障と税の超党派協議について、政府が4月にまとめる社会保障改革案に財源問題が明示され、同案を政府・民主党が機関決定することを前提に、前向きに応じる姿勢を示した。

・・・

「試算とか、（民主）党内で決定していないとかいって『天の声』でひっくり返ることになれば、まじめに議論する意味はない」と強調、政府・民主党の機関決定なしには協議にならないとくぎを刺した。

ここなんだよ大切なところは。今日も年に一度の学部の懇親会で一緒にいた塾長先生に僕が話していたことは、政府がまとめる社会保障と税の一体改革案が、福田・麻生路線のそれに近づけば近づくほど、民主党のマニフェストとの乖離が生まれるということ。政府の一部は、福田・麻生路線と同じものを野党につきつければ、自公は拒むことはできまいと踏んでいるんだろうけど、あのマニフェストは、福田・麻生路線の否定の上に建てた砂上の楼閣。だから、福田・麻生路線の一体改革案を政府が掲げれば、それは完全にマニフェスト違反になってしまう。その一体改革案を、内閣支持率が極端に低く、ために党内掌握力を完全に喪失している総理が、総理への謀反の大義を、民主党の原点たるマニフェストの遵守に求める議員に飲ますことができるのか？ 総理らが考えている、自公を与野党協議という政府にとって有利な戦場に引っ張り出す戦術は、実に浅はかと僕が評してきた理由はそのあたりにある。第2次菅内閣を作って与謝野さんを取り込んだ時、彼らは、前門の虎は見ていたかもしれないが、後門の狼がおとなしく従うとみていたのだろうか——前門の虎対策としても浅はかすぎるのだが。

いま毎週土曜日に官邸でやっている劇は、民主党議員向けの勉強会でもあるのだが、その程度のことで、次の図の右側のグループを左側に移動させることができるのか。彼らが右側にいるのは、今の内閣のメンバーがかつて確信犯的に右側にいたのと同じように、不勉強ゆえでもないのである。

昨年(2019年)の6月6日脱稿の[勿凝学問 312](#)より

	財政問題を正直に論じて、国難を乗り越えようとするグループ	財政問題でウソをついて衆愚選挙をしかけ続けようとするか、社会保障機能強化を考えていないグループ
与党	民主 反小沢グループ	民主 小沢グループ
野党	自民 谷垣グループ 立ち上がれ日本 与謝野グループ	自民 上げ潮派 みんなの党 等々

参考資料 「[参院選前夜の政界マップ](#)」『週刊東洋経済』4月24日号
注) 面白いのは、民主党内の対立グループ、自民党内の対立グループは、互いに烈しく憎み合っており、菅・谷垣間、小沢・上げ潮派・みんなの党間の方が親和性が高いということ。僕が、各政党を海苔巻きのようにまな板の上に並べて、右と左の2つに分ける政界再編の必要性ありと言い続けてきた根拠は、そこにある。日本の政党は、まあ、政党の体をなしていないわけで、民主党の代表選や自民党の総裁選の結果次第で、党の方針そのものが右に行ったり左に行ったり右往左往——有権者にはたまったものではない、政党政治確立に向けた原始的状态。。

それに、4月とか6月とかにまとめるらしい社会保障と税の一体改革案は、民主党のマニフェストと大きく乖離しているはずなのに、マニフェストの見直しは総選挙から丁度2年目にあたるので、9月に行うなどという総理の子供騙しに、野党がのるインセンティブはどこにあるというのか。さらに、彼、および彼の取り巻きたちは大きな勘違いをしているようであるが、頻繁に総理が見せる居丈高な脅しは、与野党協議の実現を遠ざけるだけのものでしかないのである。

さて、「政府・民主党の機関決定なしには協議にならない」というもっともな条件をつきつけることにより、民主党の中に時限爆弾を仕掛けようとしているとみることもできる自民党の戦術、結果は、どうなると思う？

野党が権力を求め、政局をしかけるのは、政治家として当たり前の話である。我々にとって重要なことは、政局をしかける野党が、我々第三者からみて正論に見える理由を掲げ

ているかどうかであり、残念ながら、民主党に政局をしかける野党の言い分の多くが正論になってしまうのである。これは、民主党が野党だった時になりふり構わず政局を仕掛けていた状況とはまったく違う。

2月24日に書いていることだが ([勿凝学問 363](#) 所収)、「今の総理や与党は、不思議と相手の論が正論になってしまうという大きな特徴をもっているんだよなあ。良いことなのか、悪いことなのか分からんけど、興味深い特徴ではある」——この特徴が、政権交代の是非以前に、政権交代の仕方の是非に由来して、この政権が根っこの部分で統治の正当性を持っていないことから生まれているように思えるのである。

次、ご参考までに。

✓ [「政界と税と社会保障」](#)『週刊東洋経済』2011年1月1日号